

## 第3章 アザラシ

長村美咲

### 3.1 アザラシについて

第3章ではとっかかりセンターで触れ合ったアザラシたちは、どんな特徴や性質を持っているか示し、保護活動と駆除の背景について考察していく。

#### 3.1.1 アザラシの生態

アザラシは<sup>ききやくろい</sup>鰭脚類に分類でき、イタチの仲間から進化したという説が有力である。種類によって大きさが様々で、ワモンアザラシでは全長 120cm、体重 50kg、ミナミゾウアザラシでは全長 420cm、体重 3700kg にまで及ぶ。多くのアザラシはオスとメスで体重の差はないが、ミナミゾウアザラシではオスの体重はメスの 10 倍以上になる。アザラシの口の周りに生えているたくさんのヒゲに知覚神経が通っており、人間が手で触って感触を得るように、アザラシはヒゲで感触を得ることができるが、アザラシの目には色を識別する能力はなく、明るさだけをとらえている。また、アザラシは体脂肪率の高さが有名だ。人間の場合、男性なら 15%、女性なら 20% くらいが一般的で、これをそれぞれ 5% くらい上回ると少しウエイトオーバーである。他の動物の例を挙げるなら、犬は 20% 台、和牛は 25~30% で、太っているイメージのある豚はなんと 14~18% が標準的であり、見た目よりも体脂肪率が低い。しかしアザラシの体脂肪率はなんと 50% を越えることも珍しくないという。ただ、もともと寒さに耐えるための構造になっており、高い体脂肪率が何らかの病気に直結することはないそうだ。

アザラシの生態の特徴は大きく三つに分けることができる。

一つ目は、「潜水能力の高さ」だ。アザラシは海底で寝ていると言われるほど潜水時間が長く、平均で 120 分潜り続けられ、深さは 1700m にも達すると言われている。長時間潜り続けられる理由として、酸素と結合する「ミオグロミン」というたんぱく質を人の 10 倍持っているからだと考えられる。

二つ目は、アザラシは集団で行動する動物で、「託児所制度」のようなものが存在することだ。母アザラシが海に餌を取りに行っている間、子アザラシは一箇所に集められ、保母役のアザラシが面倒を見たり、子を亡くしたアザラシからの攻撃に備えたりしている。

三つ目は、アザラシの食性が「広食性」であることだ。小型のサンマ、カレイ、ニシンなどの魚類を主に食べるが、イカ、タコ、エビなどの無脊椎動物も食べることができる。南極の王者と呼ばれるヒョウアザラシは狩人として有名で「意外と危険な動物ランキングトップ 10」(2014)にも入っており、時速 20km の速さで水中を泳ぎ、ペンギンやオットセイの子どもでさえも捕食する。2014 年 10 月、『Marine Mammal Science』誌に掲載さ

れた論文には、2013年にフランス沿岸でネズミイルカのすぐ近くでハイイロアザラシが急に顔をだしイルカの頭にかぶりついた、という目撃談が紹介されている。2014年11月に掲載された論文によれば、ハイイロアザラシに襲われると、皮と脂肪の大部分がはぎ取られ、3～5本のひっかき傷が残るほどで、かわいい見た目とは裏腹に凶暴な種類のアザラシも存在する。

### 3.1.2 流氷とアザラシ

流氷がやってくる時期のオホーツク沿岸では、様々な動物を観察することができる。アザラシもその一つで、特に網走で多く見られる。網走では1月中旬から3月中旬にかけて最も流氷が近づき、運が良ければ砕氷観光船「おーら」から流氷の上に寝そべっているアザラシを見ることができる。

アザラシをこと見るができるのは海の上だけとは限らない。氷上ワカサギ釣りで有名な網走湖は、冬は全面結氷しているが網走川を通してオホーツク海と繋がっており、その距離はわずか5kmだ。アザラシは網走川を通して網走湖の湖口までやってきて湖の氷の先端部分に乗っかるのだ。この時期、アザラシたちにとっては出産・育児を始める大切な季節であり、アザラシの多くは出産・育児の際に流氷を利用する。生まれて2～3週間のアザラシの赤ちゃんはまだ泳ぐことができない。赤ちゃんをシャチなどの天敵から守るために、泳げるようになるまでは流氷の上で生活し子育てするのである。ワモンアザラシは、生後一週間は氷床に掘った巣穴で過ごす。この氷が速く溶けきってしまうと、生きるために必要な脂肪を蓄える前に海中に投げ出されることになり、飢えと寒さによって苦しみながら命を落としてしまうことになる。したがって、アザラシが成長する上で流氷はとても大切な存在といえる。

### 3.1.3 日本で見られるアザラシ

日本近海では5種類のアザラシが見られる。ゴマフアザラシ、ゼニガタアザラシ、クラカケアザラシ、ワモンアザラシ、アゴヒゲアザラシの5つだ。以下の表に分布、大きさ、体長、模様、その他の特徴をまとめた。

表 3-1 日本で見られるアザラシ

|     | ゴマフアザラシ                                 | ゼニガタアザラシ                       | クラカケアザラシ                     | ワモンアザラシ                   | アゴヒゲアザラシ                   |
|-----|-----------------------------------------|--------------------------------|------------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 分布  | オホーツク海とベーリング海                           | 北海道産の亜種で、道東沿岸から千島、アーリュシャン列島    | オホーツク海とベーリング海                | 北大西洋と北大西洋及び北極圏            | 北太平洋と北大西洋及び北極海の北極圏         |
| 大きさ | 頭胴長 160～170cm、体重 82～123kg               | 頭胴長 160～180cm、体重 80～150kg      | 頭胴長 150～175 cm、体重 70～90kg    | 頭胴長 120～150 cm、体重 60～70kg | 頭胴長 210～240cm、体重 200～250kg |
| 体色  | 明色型で、暗い白から灰色                            | 明色型と暗色型の 2 種類あるが、日本で見られるのは暗色型だ | 明暗型で年齢とともに黒みを増す              | 明色型、暗色型の両方がいる             | 灰褐色のみ                      |
| 模様  | 小さい黒い斑点が全身にあるが、個体により、斑点の濃淡や密度にだいぶ違って見える | リング状の模様が全身にある                  | 首、脇、腰に白い帯の模様がある。メスはこの模様が不明瞭だ | リング状の模様がある。腹面にはない         | 全身に斑紋をもつがほとんど目立たず、無地に見える   |
| その他 | 冬の一部北海道沿岸、夏の風蓮湖に生息する                    | 日本で見られるアザラシの中で繁殖に流氷を利用しない      | 胴回りに対し顔が小さい                  | アザラシの中でもっとも小柄だ            | 日本で見られるアザラシの中で最も大型だ        |

筆者作成

### 3.2 とっかりセンターの概要

とっかりセンターはオホーツク海のすぐ近くに位置しており、アザラシだけを飼育している国内では他に類を見ない施設だ。1987年に4頭から始まり、現在は20頭を超えるアザラシを飼育している。とっかりセンターはアザラシランドとアザラシシーパラダイスの二つの施設によって構成されている。施設の名前の「とっかり」はアザラシを意味するアイヌ語「トゥカラ」に由来する北海道方言だ。

図 3-1 餌やりの様子



筆者撮影

#### 3.2.1 アザラシランド

アザラシランドはとっかりセンターの主要施設で、ここでアザラシの観察と保護を行っている。1日5回行われるアザラシの餌やりを見学することもできる。

#### 3.2.2 アザラシシーパラダイス

アザラシシーパラダイスは2015年9月にオープンし、こちらの施設では1日3回の餌の時間に、直接餌をあげることができる。

#### 3.2.3 とっかりセンターのアザラシ

とっかりセンターのアザラシは、最年少で3歳最年長で32歳で、メス11頭オス10頭が保護されている。

とっかりセンターHPには、1頭1頭の名前の由来と顔写真が記載されており、全員の愛らしい姿をみることができる。余談だが、とっかりセンターには6人の職員の方が勤務しており、そのうちの5人が神奈川県・千葉県・兵庫県といった道外出身だ。故郷から遠く離れた紋別で働く理由として、アザラシとの触れ合いを通じてもっと多くの人々にアザラシの魅力を伝えていきたいからだそうだ。

### 3.3 アザラシの保護活動

#### 3.3.1 保護活動

とっかりセンターでは毎年数頭のアザラシを保護している。2016年4月17日網走港内でワモンアザラシの新生児(オス)が保護された。授乳期間中に親とはぐれてしまったと考えられており、現在はアザラシペン(アザラシの病院)の中で魚を食べる練習をしているという。

### 3.3.2 テレビ番組の協力

2016年9月2日、日本テレビ「天才！志村どうぶつ園」でとっかりセンターが特集された。モデルの森泉さんが動物たちの大工仕事をうけおいます！という内容のもと地元の大工さんたちと協力して動物たちのためになるものを作ったり、壊れているものを修繕・改良したりする企画だ。

とっかりセンターのアザラシたちは健康を取り戻すために検査を繰り返していくうちに人に慣れすぎてしまい、海に帰るのを嫌がっている子がいて、海に帰るための練習をしなくなってしまったという。センターの職員が練習のために直接海につながるプールを作ったが、プールまで続く斜面を怖がり、全く練習してくれない。そこで森泉さんはプールの斜面をよく観察した。するとアザラシが斜面を怖がる理由として、斜面がコンクリートで出来ており触れた感じが痛いこと、アザラシ目線から見て斜面の角度が急なのが挙げられた。これを改善すべく、全体に絨毯を敷いてすべり止めにし、斜面を怖がらないように木で段差を作った。その後、アザラシをプールまで連れて行くと、いつもは練習しなかった子も、改造後は練習してくれるようになり、企画は成功に終わった。

図 3-2 保護されたワモンアザラシの新生児



出所:とっかりセンターHP

### 3.3.3 リリースされたアザラシ

2013年春にオホーツクとっかりセンターに保護したゴマフアザラシの赤ちゃんが健康になったので、2013年12月27日に海にリリースした。その際に北海道大学と紋別市との共同研究の一環としてリリース個体に衛星発信器を装着し、回遊ルートを追跡している。

また、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターでは、アザラシの現在地を公開しておりインターネットを通して閲覧することができる。

### 3.3.4 駆除されるアザラシ

とっかりセンターの保護活動について述べてきたが、一方でアザラシを駆除する動きがあるのも事実である。漁師は漁場の魚は食い散らす、網を食い破る、網にかかったエビやカニを好んで食べるといったアザラシによる漁業荒らしに悩まされているというのだ。2007年から2009年で被害が急増した。「タコの姿が消えた」との声もある。以前はオホーツク海限定でやって来ていたゴマフアザラシが、昨今の温暖化によって流氷が減ったために、宗谷海峡を越えて日本海側へも来るようになったのだという。日本海側は魚が豊富で過ごしやすく、その数も大幅に増えた。ゴマフアザラシ観察所の管理人によると、抜海港近辺だけで1000頭いるかもしれないと推測されており、稚内市役所は「北海道では5つの漁港で駆除をしている。被害状況によっては、ほかの港でも駆除する可能性もある」と言及している。

おわりに

3.2の概要で触れたように、オホーツクとっかりセンターはアザラシの保護活動を目的とした施設だ。しかし、3.3.4で触れたようにアザラシが駆除されている現実もある。駆除されているのはアザラシだけでなく、シカ、イノシシ、クマ、サルなどの野生動物は年頭何十万頭も捕殺されている。農作物や海産物に被害を与えているのは事実であるが、動物たちも食べなければ生きていけないので、人間の領域と野生生物の生息地を切り分けて、野生動物を殺さずに共存する施策が求められる。山に住む動物には、農地を電気柵で囲ったり、犬の能力を活用したモンキーダッグの育成をしたりなど、対応策がいくつか浮かぶ。しかし、海洋生物ではそういった策を練るのはなかなか難しい。海において、人間と動物の領域の区別をつけるのが困難であるからだ。WWF(世界自然保護

図 3-3 アザラシとの触れ合い



筆者撮影

図 3-4 オブジェに収まって  
ご機嫌な秋野



久松優菜撮影

基金)は、「絶滅の危機にある種のリスト(通称レッドリスト)」に記載されているアフリカゾウやクロサイ、トラ、ジャイアントパンダといった動物たちを保護する活動を進めている。もちろんこれも生態系を守るための大切な活動の1つであるが、「駆除されていく動物」を減らすこともさらに重要になるのではないだろうか。「増えれば殺し、減れば保護する」という現状はとても身勝手なことだ。また、レッドリストに記載されている動物の多くは、角や毛を売るために人間が大量捕獲し数が減少してしまった。今は絶滅の心配がない生物でも、人間によって絶滅させられていくのかもしれない。

とっかりセンターを見学し、間近でアザラシを見ること触れることができた。とっかりセンターのHPは情報量が充実していて、インスタグラムでもとっかりセンターについての投稿がたくさんあり、口コミでも高評価であった。また、3.3.2で述べたようにテレビ番組の影響力も非常に大きい。様々なツールから情報を公開していくことで、保護の様子・駆除されている背景をたくさんの人が知り、野生動物を人間の共存について考える機会が少しでも増えるであろう。

## 参照 HP

- ・アザラシの管理 環境生活部環境局生物多様性保全課

[www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/yasei/azarashi/kanri.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/yasei/azarashi/kanri.htm)

- ・意外と危険な動物ランキングトップ10

<https://hackapell.com/2014/03/unexpected-danger-animals>

- ・オホーツクとっかりセンターHP

<https://mombetsu.jp>

- ・Jcast テレビウォッチ

[www.j-cast.com/tv/2008/03/05017436.html](http://www.j-cast.com/tv/2008/03/05017436.html)

- ・WWFHP

[www.wwf.or.jp](http://www.wwf.or.jp)

- ・肉体改造研究所

[www.know-dt.com/diary/2010/02/03/530](http://www.know-dt.com/diary/2010/02/03/530)

- ・日本で見られるアザラシ・アシカの仲間

[iizuna.web.fc2.com/setumei/kikyakuhikaku.htm](http://iizuna.web.fc2.com/setumei/kikyakuhikaku.htm)

- ・流氷サイト

[www.noah.ne.jp](http://www.noah.ne.jp)